

優れた教育成果を挙げた教職員を対象とした「東京都市大学 優秀教育者賞」ならびに、研究を通じて社会へのアピールを果たした教職員に贈られる「東京都市大学 優秀研究者賞」。平成23年度は、優れた教材を駆使して実践的な工学教育を行っている吉川弘道教授に優秀教育者賞が、論文発表などにとどまらず書籍出版などを通じて広く一般に研究成果を発表し続ける小林茂雄教授に優秀研究者賞が贈られました。

優秀研究者賞



建築・都市の光環境と 人間行動に関する一連の 研究とその成果の書籍出版

【工学部 建築学科】小林茂雄 教授

人間と環境の関係を行為という視点から追究し、新たな建築環境の評価方法を確立したことで、平成22年度建築学会賞を受賞した小林茂雄教授。研究の成果を活かし、研究室の学生と共同で進めた書籍出版も高く評価されています。

時代や空間の共有を 実感できる環境づくり

小林教授の研究は、光環境と人間行動の関係を明らかにしようとするもの。環境心理学をもとに、光や色彩を中心とした環境要素が人間に与える影響について研究を続けています。

「私は人々の自己表現が閉じられた建築の中だけでなく、街や公共の場所にあふれ出しているという環境が好きなんです。ストリートアートや音楽、そこに住んでいる人の活動が目に見えて、多くの人と時代や空間を共有していることが実感できる。そんな空間をつくりたいというのが根本的な考えなんです」という小林先生。昨年から今年にかけては、一般の人や子供たちを集めたワークショップを積極的に開催しているそうです。

「例えばストリートウォッチング(路上観察)のワークショップでは、いろいろな街を実際に歩き

ながら、環境心理学の視点を活かして観察を行いました。洗濯物の干し方の違いに着目したり、街にある色々な物を叩いて音を作ってみたりと、何気ない風景から興味深いものを発見するという面白さがあります。灯りづくりのワークショップも好評でした。既製品ではなく自分たちで照明器具をつくり、空間や光のデザインも自分たちの手でつくり上げようというテーマが皆さんの興味を引いたようです」。

学生との共同作業で 新たな発想を獲得

「研究論文を書くという行為は刺激的の」という小林先生ですが、ご自身の研究をもう少し一般の人にも広く知ってもらいたいと始めたのが、研究室の学生と一緒に進める書籍づくり。ここ数年で光環境や路上観察に関する本を多数出版

Profile

1991年東京工業大学工学部建築学科卒業。93年同大学院修士課程修了。同年同大学院助手となり、98年には博士号(工学)を取得(東京工業大学)。2000年本学講師に就任し、現在建築学科教授を務める。2010年には日本建築学会賞(論文)を受賞。都市の「落書き」研究の第一人者としてメディアでも活躍。

しています。学生と一緒に本を制作することで、自分には書けない柔らかな発想とニュアンスを持った書籍が生まれるのだとか。

「建築や環境が人の暮らしや行動に与える影響というのは、まだまだたくさんあると思います。例えば、人は明るい場所では大きな声で話がちになるとか、暗い場所では人と人が視線でコンタクトを取る回数が増えるとか、そういう空間の持つ力を引き出して活用することができればと考えています」。

人間にとってよりよい空間と環境を求めて、小林先生の興味の対象はまだまだ多方面に広がっているようです。



2003年から小林先生と学生たちの手で立ち上げたイベント「キャンパスイルミネーション」。世田谷キャンパスが色とりどりの照明で幻想的な空間に生まれ変わった。2009年に終了したが、近隣のファンからは再開を望む声も。



学生との共同作業で出版した書籍。左から「Lighting by Yourself 手づくりライティング」(オーム社)、「写真で見つける光のアート—街歩きを10倍楽しくするために」(雷鳥社)、その台湾版「光最先決:光線撮影の演繹興味」(悦知文化)。



ストリートウォッチングのワークショップは、池袋や渋谷といった市街地のみならず、東大和市など郊外でも開催。見慣れた街の中に意外な空間を発見する喜びや驚きに、参加者からも好評を博している。



路上観察や街の中のアートを心理学的視点でとらえた「ストリートウォッチング 路上観察と心理学的街遊びのヒント」(左/誠信書房刊)と「街に描く—落書きを消して合法的なアートをつくる—」(右/理工図書刊)。